

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

開講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

がん診療アップデート会場

当大阪南医療センター主催のがん診療アップデートは今回で第19回目の開催となりました。

会場は昨年と同じくラプリーホール。当日は涼しい天候に恵まれました。

今回も、医療ソーシャルワーカー・看護師・医師・コメディカルによる、医療相談コーナーや、血圧測定・肺活量チェック・骨密度測定等の健康チェックコーナーがホール前に設けられ、受付をすませた方々は、早速相談や測定に来られ、大変にぎわいました。



会場となったラプリーホール



会場入口の様子



受付の様子



健康チェックコーナー



がん相談支援コーナー



緩和ケアブース



情報（資料・グッズ）コーナー



がん教育ブース



がんについて学ぼう（DVD視聴）コーナー



患者サロン ろーずまりー



河内長野市保健センター



患者会 大阪がんえすナビ



情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

開講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

開講の挨拶

準備も整い、来場者様もホールへと移動。第19回がん診療アップデートの開講です。



当大阪南医療センター院長の齊藤 正伸、河内長野市市長の島田 智明様により、開講の挨拶がされました。

「この講演会が有意義なものとなりますようお祈り申し上げます。」

大阪南医療センター 院長 齊藤 正伸



本日はお忙しい中、また昨日まで暑かったのですが今日は一段と涼しく、前の道路が大渋滞している中、お集まりいただき有り難うございます。

地域の皆様、地域を支えてくださっている医療関係者の方の皆様に正しいがんの知識と新しい医療情報を発信するために行ってきました、がん診療アップデートは第19回を迎えます。今回は「緩和医療」がテーマです。

「緩和医療」という言葉を聞けば何かがんの末期の患者さんに麻薬を使って痛みを取っているイメージか、

ホスピスにいらっしゃるイメージがあります。

しかし今日の緩和医療は、がんと診断されたその日から例えばそのがんが手術や化学療法や放射線治療で治るがんであっても、その治療経過を通じて緩和医療が行われます。

がんと告知された時、心に痛みが生じます。また手術、化学療法や放射線治療を受ける時にも心と体に痛みや苦痛が生じます。これらの辛さを少しでも軽く少しでも豊かな生活を送って頂けるよう、緩和医療はがんと診断されたその日から開始されるようになって参りました。

また、がんだけでなくも重傷の心不全などでも心の痛み・体の苦痛が伴いますから、がんではない病気に対しても緩和医療が行われるようになって参りました。

本日の前半の講演では、大阪南医療センター緩和ケア推進室長の上島先生に「緩和ケアとは何か」を解説していただき、森看護師、岩切薬剤師、放射線科荻野医師にそれぞれの領域で緩和医療について説明していただき、最後に近畿大学医学部附属病院心療内科の小山教授に「患者と家族の「こころ」のケア」について解説していただきます。

また後半では、井上あずみさん、ゆーゆさん親子による特別講演を予定しており、「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」というテーマでお話し頂く予定であります。

今回の講演が皆様にとって有意義でありますことをお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

「健康で豊かな暮らしを支援する仕組みを推進し健康寿命の延伸を目指します。」

河内長野市 市長 島田 智明 様



金剛・岩湧の山々も鮮やかな新緑に色づき、大変美しい季節を迎える中、第十九回がん診療アップデート

「緩和医療について」が、国立病院機構大阪南医療センター、近畿大学医学部附属病院がんセンター、並びに各市の医師会、薬剤師会、保健所、関係者の皆様のご尽力によりまして、盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

また、皆様には、平素から保健福祉行政の推進に、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、皆様もご存じのことと思われませんが、河内長野市は大阪府下9町1村を除いた33市の中で高齢化率がトップでございます。この秋口ぐらいに33.3%に到達、つまり河内長野市民の3人に1人が65歳以上になる見込みでございます。このような高齢化社会の中で、将来にわたり健やかな生活を送るためには健康づくりの推進と医療体制の充実が重要であると考えております。

最近の統計によりますと、生涯でがん罹患する確率は、男性6.2%、女性4.6%で、大体2人に1人が、がんになる状況と言えます。これには様々な理由がありますが、医療の進歩により平均寿命が延び、病気になる機会が増えたことが1つの理由です。現在、男性は81歳、女性は87歳まで生きるということで、毎年平均寿命が延びております。1960年の時点では、平均寿命が男性65歳、女性70歳でしたので、ここ何十年間で寿命がどんどん延びている状況でございます。

このような中19回を数える「がん診療アップデート」は、本市をはじめ南河内地域におきまして毎年開催いただいております。本日は市民の皆様、近隣の医療従事者の皆様に、がんの緩和医療についての講演を通して、がんについての理解を深め、今後の啓発に役立てていただきますようお願いしております。

また、会場には、がん相談支援コーナーや、健康チェックコーナーを設置いただいておりますので、お時間の許す限りご参加いただき、明日からの健康づくりに繋げていただければと存じます。

後になりましたが、開催に際しまして、ご尽力を賜りました実行委員会の国立病院機構大阪南医療センター、近畿大学医学部附属病院がんセンター、並びに各市の医師会、薬剤師会、保健所、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

最後に、本市では、市民の皆様の健康目標及び施策の指針であります第四次保健計画の策定をはじめ、今後とも市民の皆様の健康で豊かな暮らしを支援する取り組みを推進し、健康寿命の延伸を目指して参りますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



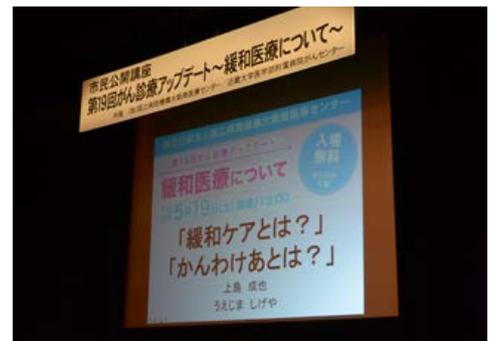
- ▶ がん診療アップデート会場
- ▶ 開講の挨拶
- ▶ 上島緩和ケア推進室長の講演
- ▶ 森看護師の講演
- ▶ 岩切薬剤師の講演
- ▶ 荻野医師の講演
- ▶ 小山教授の講演
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)
- ▶ 閉講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

「緩和ケアとは？」

大阪南医療センター 緩和ケア推進室長 上島 成也

皆様こんにちは。私は今日皆様と共に緩和ケアについて勉強していきたいと思っています。スライドの字をひらがなで書かせて頂いているのは多くのお子さんが来て頂いていると想像しましたのでひらがなで進めさせていただきたいと思っています。大人の皆様も子供になった気持ちで振り返って頂いて少し考えていただければ有り難いと思います。



咳が出たり頭が痛かったりお腹が痛かったり熱が出たり、このようなことを皆様は経験したことがありますよね。こんな時誰かがそっと頭を撫でてくれたり、おでこに手を当ててくれたり、冷やしてくれたら、背中をそっと叩いてくれたり、お腹をさすってくれたり、声をかけてくれたり、横に居てくれたりしましたよね。その時、皆様はどんな気持ちでしたでしょうか。頭の痛みが和らいだでしょう。熱が下がった気がしませんでしたか。咳も和らいだでしょう。お腹の痛みも和らいだのではないのでしょうか。そして気持ちがスーッとしたということをお出ししてください。

おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、お兄ちゃんお姉ちゃん、おとうともうと、お友だちが、なんて優しいのだろう！と、きっと思われたことでしょう。ありがとうという気持ちになったのではないのでしょうか？その他いろんな気持ちを思われたことでしょう。

このことはお家の中のことだけではいけません。いえいえ、学校とか保育園とか幼稚園とかいろんな施設に多くの人たちが携わってくれて、このようなことをしてくれたのではないのでしょうか？時にはボチヤタマも横に居てくれて、みんなを元気づけてくれたのではないのでしょうか。今もそうでしょう。



そうなんです、このような普通にやってくれていることが緩和ケアなんです。ですから決して難しいことではございません。皆様はまさしくそこでしておられることが緩和ケアなんです。私のことをしっかり聞いてくれている、私のことを注目してくれている、私を癒してくださって有り難うございます。

そしてお家では皆様が手を組んでひとつのチームとしてファミリーチームとして歩んで行かれています。私達大阪南医療センターでは、いろんな専門職種が集まって医療チームとして活動しています。ファミリーチームと医療チームが手を繋ぐ、そうすることによって皆様と共に医療というものを進めていけるというのが緩和ケアというものだと考えて頂ければと思います。



ということで、皆様と共に手を繋いでチームとなって進めていくというのが緩和ケアチームというものなんです。これから看護師さんの話、そして薬剤師さんの話、さらに放射線科のお医者さんのお話、最後に心療内科の先生のお話、この4人の先生方の専門的なお仕事を皆様にお話しさせていただき聞いて頂いて、緩和ケアというものを勉強して頂こうと思っています。

この講演が終わった時には皆様と一緒に手を繋げるように頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。有り難うございました。

>> 大阪南医療センター 緩和ケア推進室

<< 前ページへ

次ページへ >>

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



- ▶ がん診療アップデート会場
- ▶ 開講の挨拶
- ▶ 上島緩和ケア推進室長の講演
- ▶ 森看護師の講演
- ▶ 岩切薬剤師の講演
- ▶ 荻野医師の講演
- ▶ 小山教授の講演
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)
- ▶ 閉講の挨拶

森看護師の講演

「緩和医療とは～緩和ケア認定看護師の立場から～」

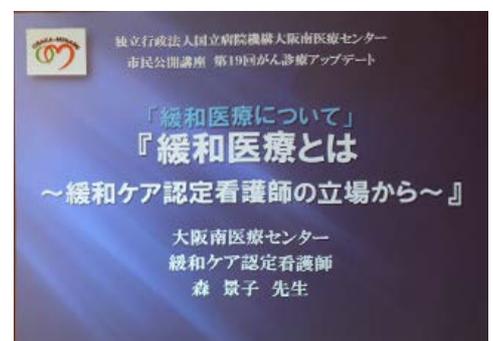
大阪南医療センター 緩和ケア認定看護師 森 景子

ここからは看護師の立場として皆様に緩和ケアについて知っていただきたいことをお伝えさせていただきます。皆様は認定看護師という言葉は聞き慣れない言葉だと思います。聞いたことあるという方は手を挙げて頂いても宜しいでしょうか？

何人かの方が手を挙げてくださいましたけども、認定看護師とはここにも書いておりますように、日本看護協会に認定された看護師のことで特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師のことをいいます。

この認定看護師はすべての分野で21分野あります。もちろんがんだけではなく、ここに上げておりますのはがん領域の認定看護師の数になります。

領域は5つありますが、この中にそれぞれ制定された年数は違いますが、私は緩和ケアというところで全国で2000人ほど居ますが、その中の1人として活動をしています。



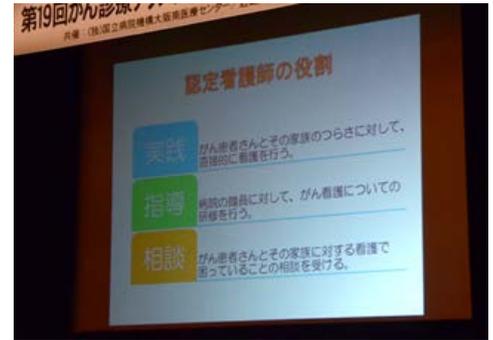
では認定看護師って何なの？普通の看護師とは何が違うの？ということですが、「実践」「指導」「相談」という三本柱の役割が認定看護師には与えられていまして、がん患者さんとその家族の辛さに対して直接的に技術的に看護を行うことの「実践」、病院の職員に対して行う「指導」、病院の職員からの「相談」を受けることで看護で困ってることへの対応を行うということになっています。

皆様の看護師のイメージというのは、血圧を測ったり注射や採血をしたり手術室で先生の介助をしたりというのがなんとなくテレビのドラマとか映画で見るようなイメージになると思います。私も血圧測ったり採血をしったりもしますが、そのイメージとは少し異なる緩和ケアサポートチームというところに所属して、そこで

活動をしています。

緩和ケアというのが今回のテーマにもなっていますので、詳しく説明いたします。

がんの治療やその後の療養生活は患者さんやご家族に対して体や気持ちで生活上様々な辛さを引き起こす場合があります。この辛さを和らげ豊かな人生を送ることができるように支えていくためのケアを緩和ケアといいます。



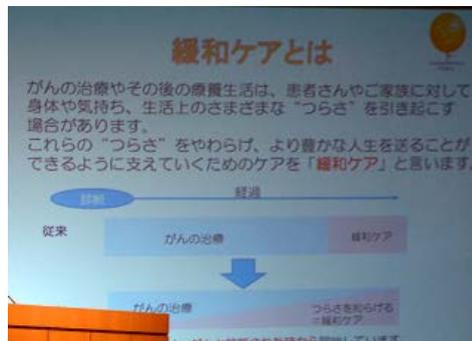
昔はがんの治療ができなくなったら緩和ケアですね、というイメージがあったと思いますが、現在ではがんと診断された時から開始されるものです。もちろんがんの治療の時にも必要になってくるものです。

では私が所属している緩和ケアサポートチームとはということです。

がん患者さんとご家族様を中心に、主治医、病棟看護師と連携する専門の医師や看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーからなるチームとなっています。患者さんの抱えている様々な体の辛さへの専門的な対処や、気持ちの辛さを和らげる治療やケアを行っています。

では一体体の辛さとはどのようなものがあるのでしょうか。テレビで見たり身近な患者さんと接して思い当たることはあると思います。痛みであったり息苦しさであったり吐き気であったり体のだるさ、食事の量が減ったりなかなか摂れないであったり、こんなことがイメージできるかなと思います。

もちろんがんと診断された時からこのような症状を持っておられる方もいますが、治療していく中でこのような症状が出てくる方もいらっしゃいます。



また次のようなことが起きるんじゃないかなあと不安の原因になってくることもあります。がんの患者さんがいます。体の辛さがあります。でもこんな症状があっても仕方のないかなあ。治療している間は痛みを我慢してはいけんじゃないかなあ。痛み止めを使っていたらそのうちに効かなくなるんじゃないかなあ。緩和ケアということは私はもう先が長くないんじゃないかなあ。先程からの話の内容を聞いて頂いていると分かると思いますが、これらはすべて誤解です。

病気だからしょうがない→全然しょうがないです。痛みは我慢する必要はありません。

痛み止めを使っていたらそのうちに効かなくなるんじゃないかなあ→たくさんのお薬があって効かなくなることはありません。

緩和ケアということは私はもう先が長くないんじゃないかなあ→緩和ケアは治療開始の時から行われるものです。

ここで体の辛さのあるAさんを例にご説明をしていきたいと思えます。

まず体の辛さについてです。

抗がん剤の治療をしてるAさん。最近痛みが辛くなってきたかなあ、でも治療中だから仕方ないかなあ、と思っています。このような患者さんたくさんおられます。でもその体の辛さを我慢してしまうと、痛みでご飯も食べられなくなってきた、夜も痛みで眠れない、体力が落ちてしまった、このままじゃ治療に耐えられないんじゃないかな、というふうにご治療のことを考えられなくなっていきます。

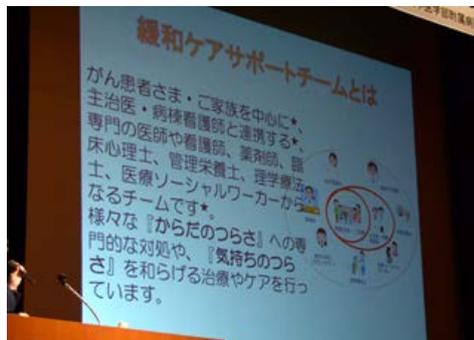
では何故体の痛みを我慢してはいけんじゃないのかというと、体の辛さというのは不眠、不安、怒り、体の機能の低下に繋がったり、痛みで体の活動量が減ってしまったり、抑鬱になったりと、様々なことと関係しています。体の

辛さがあることで他の症状にも繋がっていき、より体の辛さを辛くしてしまう傾向になります。

ではどのように体の辛さを抱えている患者さんに関わっていけばいいのでしょうか。

患者さんご本人が辛さをご家族や看護師に直接伝えて頂くことができる場合は、すぐに対処することができると思います。でもこのAさんのように我慢してなかなか表に出して頂けない場合は、その体の辛さが影響している日常生活の何らかのことから引き出すようにしていきます。

Aさん最近お食事の量が減っていますね？といったような質問から患者さんがどのような辛さや痛みを抱えているのかを引き出し、困っている部分へのサポートを考えていきます。



次に気持ちの辛さについてです。

まず病気が分かったことで、何もやる気が起きない、気持ちが沈んでいる、このまま生きていくのが辛いなど、人それぞれ様々な気持ちの辛さがあります。

ショックなことを聞くと誰もが落ち込みます。しかし落ち込みながらも回復していくという経過をたどるといいますが、それがなかなか回復しないことで日常生活に影響が出てしまうことも考えられます。また気持ちの辛さは体の辛さがある場合、痛みがどんどん強くなっているから病気が悪くなってるんじゃないかな、これからどうなっていくのかな、家族に迷惑をかけるんじゃないかな、不安で眠れない、というような気持ちの辛さにも繋がっていきます。

気持ちの辛さがある患者さんへは、治療、これからのこと、家族のこと、仕事のこと、治療費のこと、そういう気持ちの辛さを和らげるためには、ゆっくりお話を聞かせて頂いて気分転換する方法を患者さんと一緒に考えます。

解決できる内容であれば情報提供を行っていき、問題解決を進めるように関わりを持っていきます。

ただ、体の辛さがある場合は考えることができません。皆様も頭が痛かったりお腹が痛かったりすると、他のことを何か考えるのはなかなかできませんよね。なのでそういう時には、考えることを邪魔している体の辛さを少しでもなくすように関わっていくことが重要だと考えています。体の辛さはいろいろな他のことにも繋がっていき悪循環にもなっていきますので、まず体の辛さを取り除くことはとても大切なことなのです。

このあとは、この体の辛さを取り除く方法について、薬剤師さんや放射線科医師よりお話を聞いていただきます。

当院には病院の正面玄関に入って左側にがん相談支援センターがあります。どんなことでも相談を受け付けていますので、お気軽にお立ち寄り頂ければと思います。

パンフレットも外来や病棟に置いています。今お話しした内容も書いていますので一度手にとって見て頂けたらと思います。有り難うございました。

>> 大阪南医療センター がん相談支援センター

[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

開講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

岩切薬剤師の講演

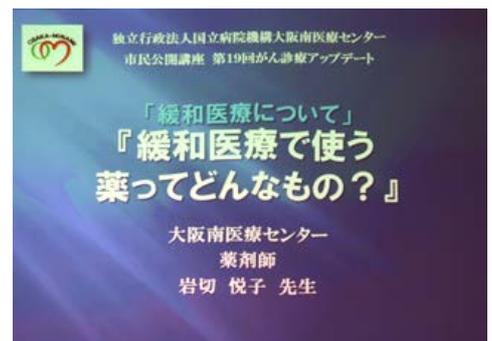
「緩和医療で使う薬ってどんなもの？」

大阪南医療センター 薬剤師 岩切 悦子

緩和医療で使う薬というと皆様はどのような薬を想像されますか？

いろいろ痛み止めとかがありますが、医療用麻薬というのを思い浮かべた方はおられるでしょうか？

ご存じない方もたくさんおられると思いますが、今の痛みの治療では麻薬を使った痛みの治療をされる方もたくさんおられます。

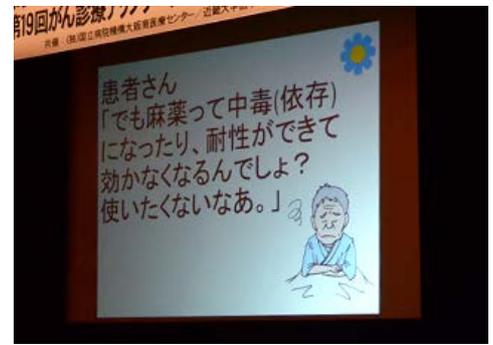
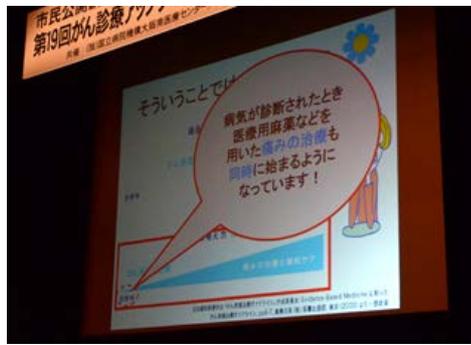


では麻薬というと皆様どのような印象をお持ちですか？麻薬を使う患者さんのなかでこのような方がおられたので紹介します。

「先生に麻薬を始めまじょうと言われました。これってもう助からないしもうすぐ死ぬってことでしょうか？」
そういう相談を受けました。その方の麻薬のイメージは、「麻薬を使うってことはもう治療方法はなくこの麻薬を使うことぐらいしかない。ということは私はもう先が短いのではないか。」というイメージを持ってました。
皆様もしかして麻薬と言われるとこのようなイメージを持たれてるのかも分かりません。でも、そういうことではございません。

昔はがんの治療ができなくなったら緩和ケアに切り替わるというイメージがあったと思いますが、現在ではがんと診断された時から麻薬の治療を開始されるものが多いです。

もちろんがんの治療の時にも必要になってくるものです。ですので先程患者さんが言われた「もう先が短いのではないか。もう私は終わりではないのか。」ということではありません。



でもこの患者さんにはまだまだ悩みがありました。「麻薬って中毒（依存）になったり耐性ができて効かなくなったりするんじゃない？使いたくないなあ。」と。テレビなどでは麻薬を使った方が中毒になったり依存症状になったり捕まったりというのが連日放送されています。皆様もご覧になった方がおられるのではないのでしょうか？もちろんそういう作用も麻薬にはありますが医療用麻薬のように治療でしっかり考えて使えば、中毒になったり依存症状にはなりません。医療用麻薬は飲み方が決まっています。

患者さんにはいろいろな痛みがあります。何もなくてもずっと痛いという痛みにはゆっくり長く効くタイプのお薬を1日1回か2回毎日飲んでもらいずっと痛いという痛みを抑えていきます。その他、通常時は痛くないが食事の時やトイレに立った時など体を動かした時にズキッと筋肉痛のように痛い場合には痛くなった時にすぐに飲んで頂く痛み止めの麻薬を使って頂くことが多いです。あとご飯を食べる時に痛くなると分かっている患者さんにはご飯を食べる前にお薬を飲んでいただき痛みなくご飯を食べられるようなタイプのお薬が出されたりします。どちらかのお薬を飲まれてる方も居れば両方のお薬を組み合わせられて飲まれて痛みを調節している方も居ます。

先生や薬剤師ともしっかり話をして痛みの程度を知ることでお薬を調節していますので、依存になったり中毒になったりということはありません。

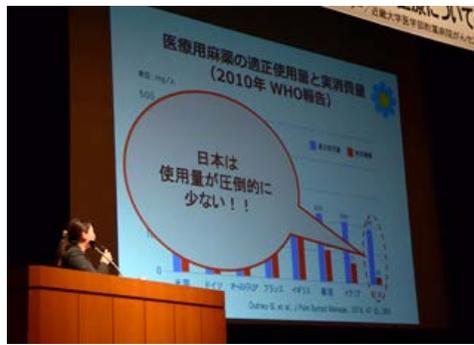


でもまだまだ患者さんには悩みがあります。「中毒はなくても他の副作用はあるんじゃない？どんな副作用がありますか？」ということです。

お薬にはすべてと言っていいほど副作用があります。麻薬もお薬ですので副作用はあります。医療用麻薬というお薬には大きく3つの副作用があります。「吐き気」「眠気」「便秘」この3つが大きくなります。

「吐き気」「眠気」の2つは耐性を行って薬に体が慣れて次第になくなっていきます。大体二週間ほどでなくなっていくと言われています。この2週間の間も我慢しろと言うことではなく抑えるようにアプローチしていきます。「便秘」に関しては残念ながら慣れは生じません。麻薬は飲んでる限り「便秘」は隣り合わせにあります。でも便秘が起ると分かっているので便秘薬などを飲んで調整しています。「眠気」が出ますので車の運転は絶対にはいけません。

あとこれはおまけなのですが、患者さんで「麻薬を飲んでるから海外へ持ち込めないから海外旅行に行きたいけど痛みのことがあるから行けないなあ。」という患者さんがおられますが、手続きは必要ですが麻薬は海外に持ち込むことが可能です。なので痛みを気にせず海外旅行を楽しむことが可能です。



このグラフは現在の麻薬の使用状況です。一番右が日本のグラフです。他の国に比べて日本は圧倒的に少ないです。これは患者さんや医療従事者にもあると思いますが、麻薬ってこわいなあ、という認識が根強くあるからだと思います。こういう発表で少しでも麻薬に対するイメージが変われば嬉しく思います。

まとめです。

○麻薬を始めたからといって死期が迫ってるというわけではありません。治療でどんどん良くなっていくことがあります。

○適切な量を守っていれば中毒や耐性は起きにくいです。

お薬のことで分からないことがありましたら、医師や薬剤師にいつでも相談してください。

今回の発表で少しでも麻薬に対するイメージが変われば嬉しく思います。

有り難うございました。

>> 大阪南医療センター 薬剤部

[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)



情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

開講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

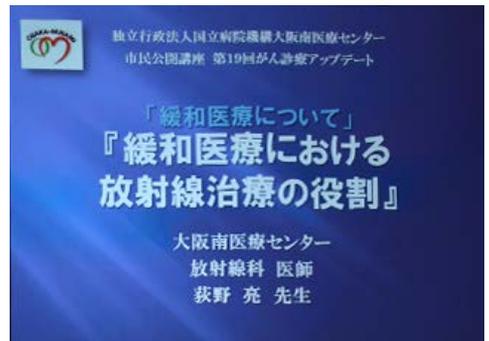
荻野医師の講演

「緩和医療における放射線治療の役割」

大阪南医療センター 放射線科医師 荻野 亮

緩和ケアというものがどのようなことを指すのかとすることがWHOから2002年に定義が出されました。苦しみとかを予防して和らげることでQOL（生活の質）を改善していこうということが書かれています。かつては緩和ケアというのは、治療が困難で余命が限られた患者さんの苦痛を和らげるものであって、病気を治すことができなくなった患者さんが対象と考えられてきましたが、現在ではQOLの向上に寄与する医療行為全般を緩和ケアと呼ぶようになっております。

病気の進行具合に関わらず、また終末期・末期に限らない病気だと分かった段階からシームレスな関わり方というのが主流です。



さて放射線治療とは何なのかということですが。

がん治療における三本柱ということを知られたことがあるかも知れないのですが、がんの治療には大きく「手術」「放射線治療」「化学療法」と3つありましてそれぞれに特徴があります。放射線治療の一番大きな特徴として、手術とは違い直接的に切除ということではないので、病気のある臓器の機能が形体を温存できるということで手術が困難な時でも治療が可能です。一言で言うと「切らずに治せる」ということが放射線治療の最大の特長かなと思います。

放射線は何故効くのか、という原理的なことを説明します。

放射線を照射することによってがん細胞のDNAが傷つき、そのことによってがん細胞が死滅してしまう、ということです。また直接照射されたことによってその細胞が生き残ったとしてもDNAに傷がついているのでそれ以上

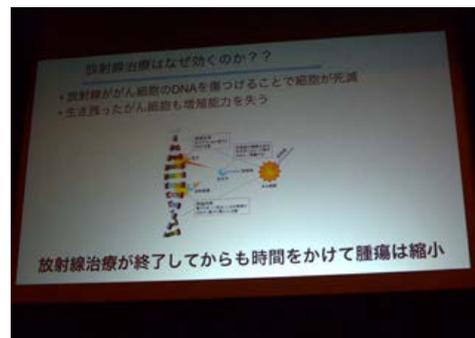
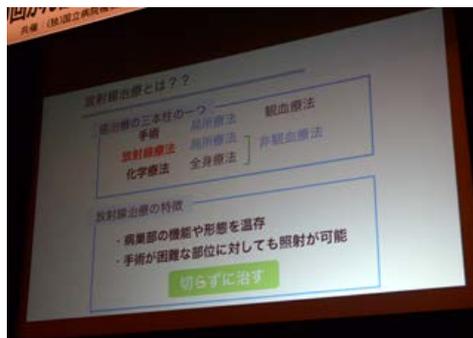
細胞が増殖することができなくなるということで、最終的に治療効果に繋がるということです。手術や抗がん剤とは違い放射線治療は放射線が当て終わってから時間もかけて腫瘍が徐々に縮んでいくことが特徴です。

緩和領域における放射線治療の考え方があります。

放射線治療というのは治療の目的によって、「根治照射」と「緩和照射」に大別されます。

「根治照射」は、がん細胞の根絶を目指すということで言い換えると病気を治すということが目標になりますので、しっかり病気の細胞を焼き切るために大線量を当てる必要があります。50グレイ、70グレイ、80グレイ当てる必要があります。治療期間は1ヶ月～3ヶ月といった長期が必要になります。病気をしっかり治すには周りの正常な細胞にも放射線がある程度当たりますので副作用が伴ってきます。あくまで病気を治すといった目的があるので回復を見込めるぐらいの副作用というのは許容され患者さんにも頑張ってもらうことになります。

対して「緩和照射」は、がんによる症状の改善や苦痛の軽減を図る目的で行いますので必ずしも病気を治すのに必要な線量は必要ないということになります。20グレイから30グレイ程度ですので治療期間も数日～数週間、大体1週間～2週間、場合によっては1日で終わるケースもあります。病気を治すのではなく苦痛を和らげる、症状を取るというのが目的ですので、できる限り治療に伴う副作用の出現を避ける必要があります。治療期間や副作用も患者さんの苦痛の原因になりますので、治療は患者さんの全身状態や症状や予想される余命等を踏まえて決定していく必要があります。



まず予後（どのくらい生きられるかという予測）が短いとされる場合は、治療に伴う負担というのはできる限り減らしていく必要がありますので当てる回数を減らして治療期間もできる限り短くしていきます。

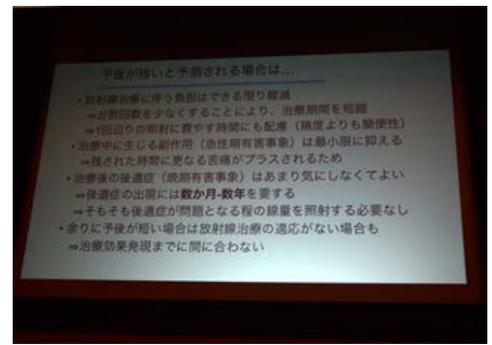
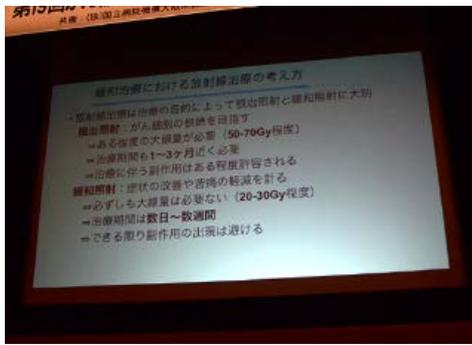
放射線治療1回に費やす時間は大体15分～20分程度かかりますが、それもできる限り短くして負担を減らすという配慮も必要になります。予後が短いということは残された時間も限りありますので、治療によって引き起こされる副作用と闘わなくてはいけなくなるというのは治療の考え方から外れてしまうので、治療中に生じる副作用は最小限に抑えなくてはなりません。ですので治療後の後遺症に関してはあまり気にしなくてもいいと言われてます。なぜなら放射線治療にかかる後遺症の出現というのは数ヶ月から数年後に出てくる可能性があるので、予後が限られている患者さんにおいては問題ないということです。そもそも後遺症が出るほどの線量を当てる必要がないためそもそも後遺症が出ないと言われてます。

あと数週間とか1ヶ月以内といったあまりに予後が短い患者さんの場合は、残念ながら放射線治療の効果が発現するまでに間に合わないということで、治療行為自体が患者さんの苦痛を増強してしまう可能性があるため放射線治療を行わないケースもあります。

逆にある程度の長期生存が期待される場合です。これはなかなか予後をどのくらいと判断するのは難しいのですが、ある程度長生きできそうという場合は、より効果的で持続的な治療というのを目指す必要があります。そのためより多くの線量を当てる治療することになります。なぜなら当てる量が多ければ当然病気を縮小したり消えてしまえる場合もあります。照射した病原を大きくならないようにコントロールする局所制御の確率が上がりますので、結果的により長期間、病気によって引き起こされた症状が抑えられるということになります。治療中の副作用に関しては治療効果と合わせてある程度許容されるということになります。放射線治療終了後の副作用というのは大体数週間から1ヶ月で元に回復しますので、多少治療中はしんどくてもその後数ヶ月、数年と治療効果が持続するのであれば許容されるのではないかなと思います。この辺りの判断というのは放射線治療の効果と副作用の加減というものがどの程度に留まるかということを考えて判断します。治療後の後遺症の発生には最大限配慮しなくてはなりません。何故かというと、長期の生存率が高いということは、後遺症が出現する数ヶ月から数年先も患者さんはお元気で生活されている可能性もありますので、後遺症が出てしまうと非常に問題になりますので配慮していく必要があります。ですので考え方としては根治照射に近くなっていくわけです。

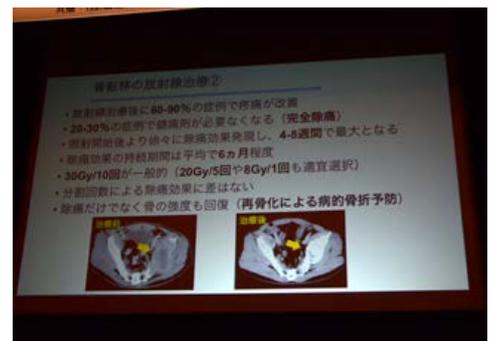
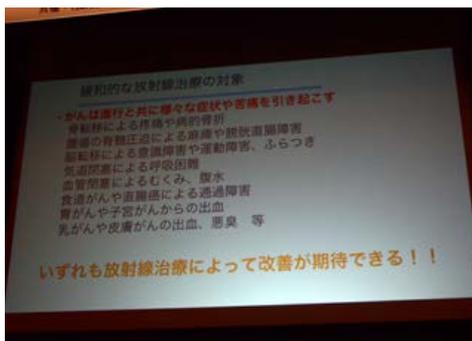
あとは一度治療したところがまた痛みが出てきたり他の症状が出てきてもう一度放射線治療が必要になるケースもありますし、当てた場所とは別の場所でも前の放射線治療が影響してくる可能性もありますので、将来的な放射線治療の必要性というものも考慮して、最初の治療方針を考える必要もあります。

IMRT等の高精度な放射線治療が緩和領域でも有用なケースも最近では増えてきています。



まず予後（どのくらい生きられるかという予測）が短いとされる場合は、治療に伴う負担というのはできる限り減らしていく必要がありますので当てる回数を減らして治療期間もできる限り短くしていきます。放射線治療1回に費やす時間は大体15分～20分程度かかりますが、それもできる限り短くして負担を減らすという配慮も必要になります。予後が短いということは残された時間も限りありますので、治療によって引き起こされる副作用と闘わなくてはいけなくなるというのは治療の考え方から外れてしまうので、治療中に生じる副作用は最小限に抑えなくてはなりません。ですので治療後の後遺症に関してはあまり気にしなくてもいいと言われてます。なぜなら放射線治療にかかる後遺症の出現というのは数ヶ月から数年後に出てくる可能性がありますので、予後が限られている患者さんにおいては問題ないということです。そもそも後遺症が出るほどの線量を当てる必要がないためそもそも後遺症が出ないと言われてます。あと数週間とか1ヶ月以内といったあまりに予後が短い患者さんの場合は、残念ながら放射線治療の効果が発現するまでに間に合わないということで、治療行為自体が患者さんの苦痛を増強してしまう可能性があるので放射線治療を行わないケースもあります。

逆にある程度の長期生存が期待される場合です。これはなかなか予後をどのくらいと判断するのは難しいのですが、ある程度長生きできそうという場合は、より効果的で持続的な治療というのを目指す必要があります。そのためより多くの線量を当てて治療することになります。なぜなら当てる量が多ければ当然病気を縮小したり消えてしまえる場合もあります。照射した病原を大きくならないようにコントロールする局所制御の確率が上がりますので、結果的により長期間、病気によって引き起こされた症状が抑えられるということになります。治療中の副作用に関しては治療効果と合わせてある程度許容されるということになります。放射線治療終了後の副作用というのは大体数週間から1ヶ月で元に戻りますので、多少治療中はしんどくてもその後数ヶ月、数年と治療効果が持続するのであれば許容されるのではないかなと思います。この辺りの判断というのは放射線治療の効果と副作用の加減というものがどの程度に留まるかということを考えて判断します。治療後の後遺症の発生には最大限配慮しなくてはなりません。何故かということ、長期の生存率が高いということは、後遺症が出てしまうかと非常に問題になりますので配慮していく必要があります。ですので考え方としては根治照射に近くなっていくわけですが、あとは一度治療したところがまた痛みが出てきたり他の症状が出てきてもう一度放射線治療が必要になるケースもありますし、当てた場所とは別の場所でも前の放射線治療が影響してくる可能性もありますので、将来的な放射線治療の必要性というものも考慮して、最初の治療方針を考える必要もあります。IMRT等の高精度な放射線治療が緩和領域でも有用なケースも最近では増えてきています。



次は具体的にどういったものが放射線治療の対象になるかということです。

がんというのは進行と共に様々な症状や苦痛を引き起こします。代表的なのは「骨転移による痛みや骨折」「腫瘍による脊髄圧迫による麻痺や排便排尿障害」「頭部転移による意識障害・運動障害、ふらつき・頭痛」「気道閉塞」「血管閉塞」「通過障害」「出血」などは放射線治療によってそれら症状の改善が期待できるものです。代表的な「骨転移による痛みや骨折」の治療に関して取り上げます。

骨は肝臓・肺・脳と並んで印象的に転移が起こしやすい場所といわれています。病気の種類によって骨転移が出やすい出にくいがありますが、前立腺がんや乳がんは非常に骨転移が多いと言われており、患者さんの大体7～8割に骨転移が出ると言われています。肺がんですと大体40～50%骨転移が出ると言われています。骨転移が進行すると疼痛であったり骨折、脊髄圧迫などの症状を引き起こします。痛み・骨折・神経症状等を引き起こすので骨転移というのは日常生活に非常に影響しますのでQOLを著しく損ないます。骨転移に放射線治療をすることで60～90%の症例で痛みが治療前より改善すると言われております。中でも20～30%の症例では痛み止めが必要なくなる完全に痛みが取れる状態まで持って行くことが可能と言われてます。放射線を当て始めてから治療が終わるまで待つ必要はなく治療開始されて徐々に除痛効果は出てきて大体1ヶ月～2ヶ月後に最も痛みが取れる状態になると言われております。これも非常に幅がありまして、1回当てて痛みが出ないという方も

居れば、大体除痛効果の持続期間は平均で6ヶ月程度、半年後と言われております。当てる回数是一般的に30グレイ10回です。土日祝日を除いて平日毎日治療することが世界的に標準ですので大体2週間の治療になります。あとは患者さんの予後がどのくらいかによって、あまり治療に時間をかけたくないという場合は20グレイ5回で1週間の治療、もしくは8グレイ1回で1日だけという治療をされることもあります。幅はありますが大体この3パターンかなと思われます。回数が多い方が痛みを和らげる効果が長続きすると言われておりますが、治療効果自体に差はないので苦しんでいる患者さんの場合は1回だけ当ててあげるのも手かなと思います。痛みを取るだけではなく当てた後は骨の強度が回復していきます。再骨化と呼ばれる状態なのですが再骨化によって病的骨折を予防することも放射線治療によって可能です。大体3ヶ月後くらいから再骨化が始まると言われており、一度溶けた骨の場合は形は変わりますが骨は回復します。

がん治療において、様々な痛みからの解放というのはQOL（生活の質）を改善します。日常生活における歩行機能の維持・向上というのは予後の改善に非常に寄与します。適切な時期に適切な治療を行うことが重要です。

緩和医療において放射線治療の果たす役割は非常に重要であると言えます。

>> 大阪南医療センター 放射線科

[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



- ▶ がん診療アップデート会場
- ▶ 開講の挨拶
- ▶ 上島緩和ケア推進室長の講演
- ▶ 森看護師の講演
- ▶ 岩切薬剤師の講演
- ▶ 荻野医師の講演
- ▶ 小山教授の講演
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)
- ▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)
- ▶ 閉講の挨拶

小山教授の講演

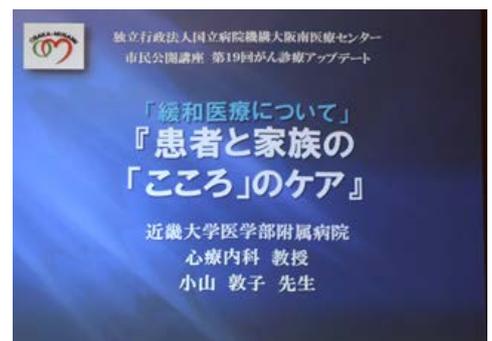
「患者と家族の「こころ」のケア」

近畿大学医学部附属病院 心療内科教授 小山 敦子

普段は近畿大学の中で心療内科医をしていますが、大阪南医療センターの中でも週1回緩和ケアチームに参加させて頂いて活動をしています。

また近畿大学のもう1人の心療内科医ももう1日参加させて頂いていますので、週2回大阪南医療センターの中の緩和ケアチームに参加させて頂いて活動をしていますので、何かありましたらお気軽に声をかけてください。

昔「男はつらいよ」という映画があったと思いますが、がん患者さんは様々な辛いことがあると思うのです。



まず最初がんと診断されたら、今の時代でも真っ先に「私でもしかして死んじゃうの...」って思います。それ以外にも「もう友人にも会いたくない...」というふうな形で人間関係を拒絶してしまう方もいるかも知れません。

「定年になったら海外旅行に行こうと思ってたのに...」といった色々な人生の目標を途中で断念せざるを得ないこともあるかも知れません。先程から話題になっていましたが、身体的にも痛いし、乳がんなどでは外形変化が起こると見せたくないと思うかも知れません。また家族や周りに迷惑かけてるしといった遠慮があるかも知れません。

こういった様々な辛さががん患者さんを襲ってるかと思います。

がんに限りませんが、病気になりますとこういった痛いといった身体的な痛みはもちろんのこと、この先どうなるんだろうといった不安や気持ちが落ち込んだりという精神的な苦痛もあるかと思います。また仕事どうしよう、医療費どうしようといったような社会的な苦痛もあるでしょう。

さらには、自分の生きてきた人生は何だったろうというスピリチュアルな苦痛。こういったものが相まって全人

的苦痛となって患者さんを苦しめているわけです。

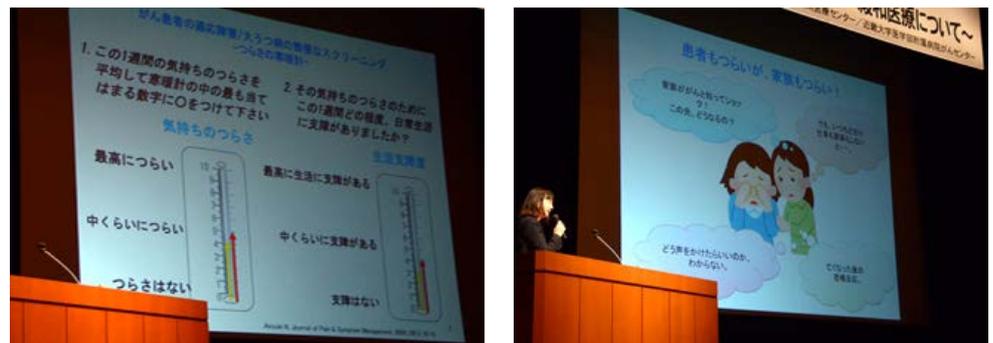
ですので、医療者の方も、体が痛かったら痛み止め、不安なだったら抗不安薬という一対一対応では決して患者さんの苦しみを和らげることはできないというふうに考えております。この全人的苦痛を和らげるためには私達も一丸となって全人的医療を実践していく必要があると考えています。



がんの治療の中で様々な時期があると思いますが、患者さんにとって非常にショックを受けるような悪い知らせを受ける時というのがあるかと思えます。まず最初は「もしかしてがんかも知れない」と心配になりながら病院に訪れる時、そしてその結果治療が難しいと言われるようながんであると診断を受ける告知をされた時、治療が進んでいて再発したと告知される時、また積極的な抗がん剤治療を中止せざるを得ないと聞く時、こういった様々な時期がありそれぞれに精神的なショックを受けることがあろうかと思えます。

一般的にそのような悪い知らせを受けた時は誰でも気持ち的に落ち込みます。奈落の底に落とされるような感じですが、でも私達は気持ち的な面でも自然治癒力があると思えます。人によって様々ですが数週間ぐらいで「でもそれは言ってもなあ...今は治療技術も進んでるし...なんとかがんになれば良くなるかも知れない...でもステージが進んでると無理かも知れない...いや頑張ろう...」といったふうに気持ちは揺れながらも約半数の人はなんとか日常生活に支障がないところまで気持ちが回復してきます。でも30%ぐらいの人は少し軽い落ち込みが残ったままで少し日常生活に支障が出るような状態のままの方もいらっしゃいます。10%ぐらいの方はずっと気持ちが落ち込んだままで鬱病と呼ばれる状態のまま過ごされる方もいらっしゃいます。

私達はその方の気持ちが今どれぐらいかということをまずお聞きしたいと思います。まったく辛さがない状況を0として一番辛い状況を10としたら気持ちの辛さはどれぐらいですか？とお聞きします。またその気持ちの辛さがあることで生活にどれくらい支障が出ますか？と患者さん自身にお聞きします。これは外から見てなかなか分かるものではありませんし採血をしたからわかるものでもありません。そこで気持ちを聞きお聞きいただき大体の点数で3点〜4点以上であれば積極的・専門的な介入が必要かと私達は考えて活動しています。



では自分が患者さんになったとして、どういふふうに取り組みが良いのでしょうか。自分ができることとしてはまず人に相談していただきたいと思えます。身近な人や患者会やサポートグループもあります。経験者に相談するのも良いでしょうしもちろん主治医や看護師さんに相談してみてください。また精神科や心療内科に相談してみてください。そしてとにかく辛くて不安なのはありますが心の中を整理してみるのも必要ではないでしょうか。どういふことが一番心配なのか、どういふことが一番不安なのか、そして今すぐ考えなくてはいけないことなのか、少し後で考えることなのかを分けたりとか、正しい情報を集めるかということも必要です。また頭の中から病気のことが離れないのは当然なのですが、今までできていた自分の楽しかったこと、趣味に打ち込んだり散歩をしたり、あるいはできる範囲内でできるだけ体を動かしてみたり、買い物へ行ったりとか、今までできていた楽しいことを続けてもらうということも必要だと思います。

またいつもとは違う対処方法を試してみるのも良いかもしれません。この病気に限らずこれまでの人生の中でいろいろと辛かったこともあったかと思うんです。そういった時に自分どういふふうにして乗り越えてきたか。その方法を思い出してちょっと試してみる。他の患者さんや経験者さんがやっていたことを試してみる。どうしてがんになっちゃったんだろう、あの時禁煙していれば、といった過去に戻

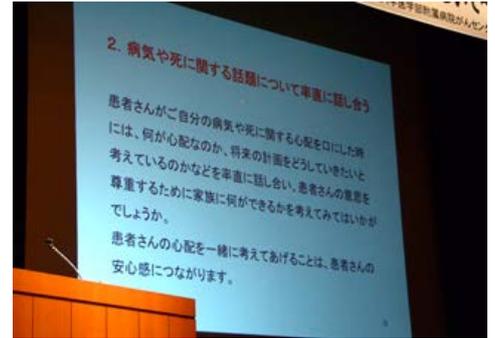
るのではなくこれからできることを考えてみることも重要かも知れません。

でも病気になって不安に思うのは当然のことです。そんな自分が弱いかダメだというんじゃなくて、自分を責めるのを止める、ということがまず大事なんじゃないかと思います。そしてご自分でできることも当然ですが、まず相談をしていただきたいと思います。

ではどういう時にどこに相談したら良いかなんです。

先程言いました、深いままで落ち込んで何をしていても気分が晴れず絶望感が続く場合。抗がん剤治療の後のだるさや吐き気が長引いている場合。自分なりに工夫をしてもどうしても元気が出ない場合。ご自分もしくはご家族で取り組める心のケアについてもっと知りたい場合。ストレスについて知って自分で対処できるようになりたい場合。どうぞお気軽にご相談ください。

そしてがんと知って患者さんは辛いと思いますが、そのご家族も辛いです。この先どうなるんだろう、どう声をかければ良いか分からない、でもご家族としてはいつも通り仕事も家事もしなくては行けない、お子さんがいらっしゃる場合はその面倒も見ないといけなくて悲しんでばかりもいられません。そしてご家族の誰かが亡くなられた場合、残された家族の悲嘆の反応が年余にわたって続くことがあります。このようにご家族も非常に辛い思いをします。



こんな場面よくあるんじゃないでしょうか。

奥さんが乳がんだと分かりました。旦那様がとても心配しています。もちろんどういふうに声をかけて良いのか分からないけどサポートしたい気持ちはいっぱいです。とにかく頑張れと励ます。でも奥さん本人にしてみれば病気とも闘い家族のことも思い精一杯やってる、これ以上何を頑張ったら良いの？と。私達も時々患者さんに言われます。頑張れって言わないでって。ではどういふうに患者さんを励ませれば良いのでしょうか。

ご家族ができる患者さんのメンテナンス。

1) 患者さんの話に黙って耳を傾ける

患者さんから辛いという言葉が聞かされると家族は元気づけようとするあまりにそんなこと言わずに頑張ろうよと言ってしまいますが、そうすると患者さんは遮断されたような形になってしまいますので、まず患者さんの辛い気持ちを黙って聞いてあげるのが非常に大事です。

2) 病气や死に関する話題に向かい合う

病气や死に関する話題になった時に避けて率直に話し合うことが大事です。日本の文化としてあまり死について話し合うことは縁起でもないという風潮があります。でも患者さん本人にしてみれば自分が亡くなった後のことをちゃんと相談しておきたいという場面があります。子供の教育方針や経済的なことを元気なうちに相談しておきたいんですね。例えば、患者さんが奥さんに「俺が逝ったらな...」と離そうしたら「ダメダメ病は気かかって言うし死ぬなんて縁起でもないことを言ったらダメ。そんなこと言ったら治るものも治らない。」というふうに励ましているつもりが、患者さんからしてみればシャットダウンされたことになりそれ以上何も言えなくなってしまいます。この話題を言ったらダメなんだなと思います。遠慮のあまりお互いに言えないままに時間が過ぎてしまうことがあります。

人は生きてきたように死んでいくものだと思います。

死を語るということはどのように生きていきたいかということ語ることです。

あまり腫れ物に触るような形ではなく、これまで通りに接する。

これが一番簡単そうで難しいのですが、それを心がけてください。

このように患者さんも辛いですがご家族も辛いかも知れません。

でもそこにお互いに手を繋ぎ合うことで、私達はこうなりたい、こうしたいんです、これが緩和ケアだと思います。

どうぞ何かありましたらお気軽に声をかけてください。

[>> 近畿大学医学部附属病院 心療内科](#)

「皆様と繋がってひとつのラブリーホールチームができました」

大阪南医療センター 緩和ケア推進室長 上島 成也

皆様、緩和ケアについてご理解頂けましたでしょうか？

私達は常に手を繋いでいます。<テーブルをみんなで持ちながら>

皆様と一緒にラブリーホールチームとして、次の井上あずみさん、ゆうゆさん親子のお話しを拝聴したいと思います。

これで皆様と繋がってひとつのラブリーホールチームができました。

有り難うございました。



[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



▶ がん診療アップデート会場

▶ 開講の挨拶

▶ 上島緩和ケア推進室長の講演

▶ 森看護師の講演

▶ 岩切薬剤師の講演

▶ 荻野医師の講演

▶ 小山教授の講演

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

▶ 閉講の挨拶

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

本日は井上あずみさん、ゆーゆさん親子を特別ゲストとして招き、

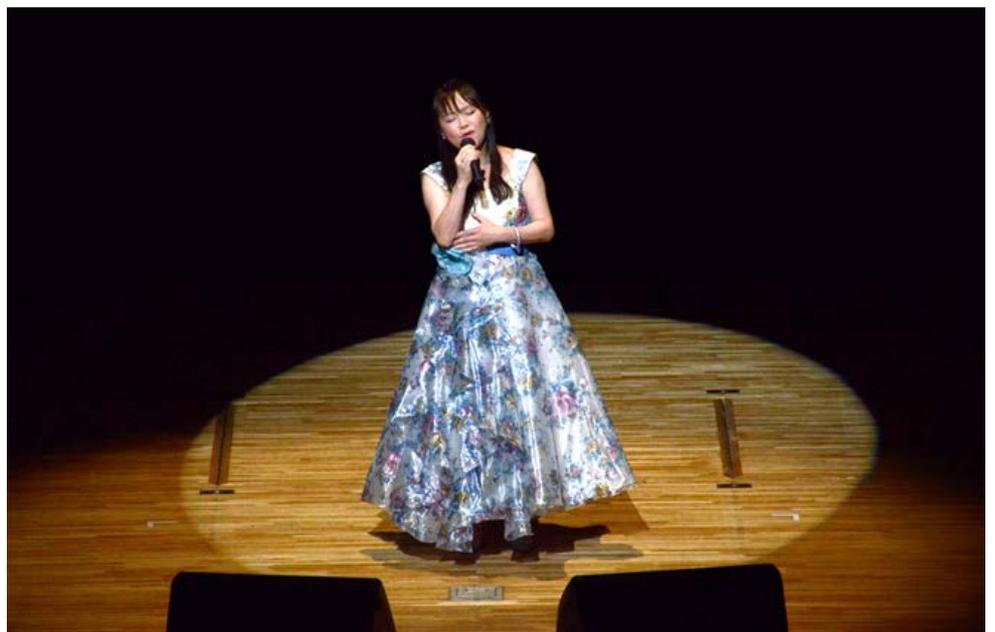
本日は「**歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！**」というテーマでトークショー形式でお話しをお伺いして頂きます。

井上あずみさんのご登場

井上あずみさんがとなりのトトロでお馴染みの「さんぽ」のイントロに乗せてご登場です。

突然ですが、井上あずみさんのミニコンサートが始まりました。

お馴染みのあの歌声が会場に響き渡ります。ご来場者様も一緒に歌い、会場も盛り上がります。



あずみさん

皆様改めましてこんにちは。井上あずみです。今の歌はとなりのトトロでお馴染みの「さんぽ」という歌です。この歌を聴いたことのある方、手を挙げてください～

---- 会場のほとんどの方が手を挙げる ----

あずみさん

ほぼ皆様ご存じなのですね。有り難うございます。

このとなりのトトロは宮崎駿監督作品です。もう30年前の映画になりますので、今日来ておられるお母さんお父さんはもちろんお子さん、そしておじいちゃんおばあちゃんもお孫さんと一緒に見たという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今日は娘のゆーゆと一緒に少しですが今回のイベントを盛り上げていけたらと思っておりますので、最後までごゆっくり楽しんでいってください～

あずみさん

きっと映画や歌は知っていても私を見るのは初めてという方もたくさんいらっしゃると思います。こんな衣装を着ていますが結構歳をとっています（笑）

先程、私も健康チェックコーナーで調べさせて頂いたのですが、年齢よりも骨密度は高かったです（笑）血圧は少し高かったです。いろいろと調べられて嬉しかったのですが、皆様はもう調べられましたか？無料ですし、すぐ見て頂けるのでぜひ足を運んで頂けたらと思います。



あずみさん

私はスタジオジブリさんお作品の歌をたくさん歌っています。

となりのトトロ「さんぽ」、天空の城ラピュタ「君をのせて」などあと7曲歌っています。魔女の宅急便を見たことのある方、手を挙げてください。

---- 会場のほとんどの方が手を挙げる ----

あずみさん

結構見ておられるのですね。有り難うございます。

---- 魔女の宅急便より「めぐる季節」。そして、30周年時に出したベストアルバムの中の親から子へから孫へ、そんな愛のリレーを歌ったさだまさしさんが作曲の「愛の本当のこと」。天空の城ラピュタ「君をのせて」。今年公開された映画「糸」の主題歌「愛しのふるさと（ロンドンデリーの歌）」を歌われました。井上あずみさんのとても素敵な歌声が会場に響き渡りました。 ----



✿ スライドを見ながらのトークショーがはじまりました



司会

やはり歌う時はワクワクする気持ちが高鳴るのでしょうか？

あずみさん

そうですね。今回はこのようなテーマですので、お客様が少ないですね。家族連れの方相手にコンサートをすることが多いので、このような大人の方相手はすごく緊張します。でも静かに聞いていただけたので嬉しかったです。

司会

デビューの頃からの話しをお聞きしたいのですが。



あずみさん

デビューは33年前です。ですのでこんな格好をしていますが53歳です（笑）。18歳の時はアイドルデビューしてました。アイドル全盛期でして松田聖子さんは2年先輩でした。私は3年間全く売れずに金沢に帰ろうかなと思った時に、先程歌いました「君をのせて」のオーディションがあったのです。ラピュタ公開の二ヶ月前にお話しをいただき選んでいただいたからはずぐにレコーディングしてという運びでした。

司会

そこからはジブリの歌姫としてお馴染みの映画の主題歌をお歌いになられて、全力投球で歌を歌われて励まれて、その後にご結婚をされたのですね。ご主人も来ておられるんですね。



あずみさん

はい。遅めの結婚をしまして（笑）。主人はもともと私が少していたバンドのアレンジなどを教えてくれるミュージシャンだったんです。今はマネージャー兼事務所の社長をしています。恰幅がよくなった西城秀樹さんにそっくりなんです。（笑）

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

開講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

ゆーゆさんご誕生から病気発覚まで

司会

そのご主人様が、歌を支えていただいたということで。その後、可愛い愛娘さまのゆーゆちゃんをご誕生になられたということなんです。母親になられた時の感想というのはどうでしたか。

あずみさん

39歳で妊娠して40歳で生んだのですが、遅く出来た子供ですごく嬉しかったのですが、妊娠8ヶ月まで全国でコンサートをしてました。

私は双角子宮ということがわかって子宮が大きくなるのでずっと逆子のままだったので結構大変でしたが、色々な方に助けていただきまして帝王切開で出産しました。

司会

ではお腹のなかでゆーゆさんはずっと歌声を聞いてられたんですね。



あずみさん

大きなお腹でコンサート会場へ行くと、全国各地の子供たちがさわらせてと言って「元気に生まれてくるんだよ～」って声をかけてくれたりと。一番いい胎教だったのではと思っています。

司会

ゆーゆちゃんの2歳の時の写真です。可愛いですね。このゆーゆちゃんが3歳になった時に家族にとって大きな出来事があったんですね。

あずみさん

急性リンパ性白血病ということで。いつもソファでダラーっとしていたので初めは風邪を引いたのかなあと感じてました。ご飯を食べなくなってしまったので、かかりつけの病院に連れて行きました。その時に漢方薬を出されて無理に飲んだのもあって薬嫌いになってしまったのですが。

そのまま何週間か経って、元々色白だったのがすごく真っ白になってきたのでちょっとおかしいと思い、近くの

大きい病院に行ったら入院かも知れないということになりまして、先生の勧めでそのまますぐ検査を受けました。検査の結果は急性リンパ性白血病でした。

やはり子供たちに向かってコンサートすることが多いので「どうして私が...」と思いました。

司会

もう大変ショックだったんですね。

あずみさん

そうですね。先生に「どうして白血病になったんですか？」って聞いたんです。やはりいろんなところに連れて行ったり体の様子を見てなかったから？休ませてなかったから？風邪引いたのに何週間も放っていたから？とか色々と自分を責めたんですが、先生が仰ったのは「もし白血病になった理由が分かったら白血病というものはなくなっていると思います。」と言われてもっともだなと思いました。

あと「今は急性白血病というものは治る確率がすごく高くて、医療はこの50年間ですごく進歩しているので、安心して下さいとは言えませんが、ちゃんとプログラムを組んで頑張りましょう。」とっていただきました。



司会

しっかりと受け止められたわけですね。

あずみさん

はい。今回のこのイベントのテーマが緩和ケアということで先生方が講演をなさってましたけど、最期だから緩和ケアということではなく様々な段階・意味合いでの緩和ケアがあるということを知って「なるほど。分からないことは知ったかぶりしないで、本やネットだけを見るのではなくて、看護師さん、薬剤師さん、先生に聞くべきなんだなあ。1人だけで悩んでいても仕方ないんだなあ。」とすごく思いました。

司会

先生方と今後の治療の説明を受ける時に、ゆーゆちゃんご本人も一緒にお話しを聞かれたということなのですが。

あずみさん

そうですね。すごく苦い薬を飲まなくてはいけなくて、痛い検査もありますし、一番大変なのは彼女じゃないですか。なので彼女自身も分かったうえでないと思いました。でも3歳なのでわからないだろうなと思いつつも一緒に交えて話を聞きました。先生方は小さい子供でも分かるように丁寧に説明をしてくださりました。

司会

ではゆーゆちゃん自身も自分の病気を受け止めてから闘病生活にはいられたんですね。ゆーゆちゃんのご様子はいかがでしたか。

あずみさん

きつい抗がん剤を飲むと髪がなくなると聞いて、それまでは長い髪だったのですがまずは髪を短くおかつぱにしましょうか？ということになりまして。私はおかつぱにする時が一番悲しかったんです。これから本当に頑張っに行かなくてはいけないんだと。

司会

そこから入院生活が始まるということなのですが、あずみさんはお仕事はどうされましたか。

あずみさん

村上隆さんというクリエイターの方がおられるのですが、カイカイキキが映画になるということで。村上さんがトトロの「さんぽ」が大好きで宮崎駿監督の大ファンで「あずみさん、さんぽみたいな曲を主題歌で歌ってください。」とオファーをいただきました。

実はその曲のレコーディングの日がゆーゆの入院の日だったんです。人生観ではないですが、いい日もあれば悪い日もあるな...と感じました。

その曲がすごく元気のいい曲だったんです。やはりそんな日に元気よく歌わなくてはいけなくてすごく辛かったです。

司会

看病は、周りの方やご主人のご協力がありましたでしょうか。

あずみさん

はい。仕事がある時は私の母が付いてくれて、大変な時は主人に行ってもらったりしていました。

司会

先程の講演で小山教授が仰っておられましたが、今まで楽しんでいたことを続けることが頑張ることが出来る工

エネルギーになる、ということでしたので、歌い続けることで一緒に乗り越えて行けてたということもありましたでしょうか。

あずみさん

入院していたのが子供病院でいろんな重い病気の子供たちが集まる病棟だったのですがみんな元気なんです。2年間ぐらい入院してる男の子なんかは、ゆーゆが来た時にはすごく可愛がってくれて、そういう子供たちはやはり外出は出来ないでテレビやDVDを見て楽しむしかないんで、みんな私の歌を知ってくれているんですね。この子達が見て聞いて聞いている曲を私は歌っているんだから、もっと元気や勇気を私が見せなくちゃダメだと思いました。

私が病院へ行くとワーワーって集まってきてくれて頑張ってきた甲斐があったと思いました。

司会

病院でも歌姫になられてたということを知ったのですが。

あずみさん

私がゆーゆに歌を歌っているとどこかで聞いたことのある声だなということがきっかけで、絵本を読み聞かせたり、ミニコンサートをしていました。



[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



▶ がん診療アップデート会場

▶ 開講の挨拶

▶ 上島緩和ケア推進室長の講演

▶ 森看護師の講演

▶ 岩切薬剤師の講演

▶ 荻野医師の講演

▶ 小山教授の講演

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

▶ 閉講の挨拶

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

ゆーゆさんのご登場。そしてその闘病生活



司会

可愛い緑の帽子を被られていますね。ここでゆーゆさんにもご登場いただいてその当時の様子をお話し頂こうと思います。それでは皆様、声を合わせてゆーゆちゃんを呼びましょう。

「ゆーゆちゃん～」

ゆーゆさん

はい！皆様こんにちははゆーゆです。よろしくお願ひいたします。

司会

元気に登場してくれました、ゆーゆちゃんです。

2004年生まれの現在中学二年生、現在13歳ということで5歳の時にあずみさんのアルバムの「ナウシカレクイエム」を歌われて7歳の時にNHKみんなのうたで「6歳のバラード」でデビューされました。最近では舞台や声優もこなされておられ、なんとこの3月にマグロニカンでバンドデビューということでエレキギターも弾かれロックデビューもされているということなんですね。マグロニカン要チェックですね。

さて、話は戻しますが、入院生活振り返ってみてどうでしたか。

ゆーゆさん

3歳の時なので記憶があまりないんですけど、先生や看護師さんが病室に来てくださって、いっぱい話してくれたり一緒に遊んでくれたり、周りのお友だちと騒ぎすぎた時は怒ってくれたりしてくれました。

司会

ユーモアや楽しみを見つけることがとても大切だったんですね。あと何か思い出はありますか？例えば苦しかった思い出とかはございますか？

ゆーゆさん

髪が抜けちゃったり、顔もまん丸になるくらいに太っ

たり、お薬の副作用でお腹がすごく空いちゃったりという状態で過ごしてました。カートで食事が運ばれてくるんですけどそのカートの音が遠くの方で鳴っただけで「あ、ご飯が来た！ママとってきて！」って言ってました。



あずみさん

そうですね。3ヶ月に1回ぐらいを3度に分けて治療するんですが、強い薬を1週間程飲んだら体を休めるというのを繰り返してるんです。その薬を飲むとお腹が空く様でして、その間はムーンフェイスというのですがぶくぶくに太って、その後の1週間は食欲が全く無くなって、というのを繰り返した半年間でした。

司会

先程、お母さんから伺いましたが、先生方の説明をご両親と一緒に聞かれてたということですが、その記憶はございますか？

ゆーゆさん

全然無いんです。その前にすごく風邪を引いていて辛い思いをしていた時に抗生剤を飲んですごく元気になったんです。なのでその元気になったことしか憶えてはいないんです。

司会

なるほど。やはり3歳だったということで感覚的なことでしか憶えてらっしゃらないということなんですが、この後にすごくいい言葉を頂いたことがあったと伺ったのですが、どんなことだったのですか？

ゆーゆさん

元気になった時に毎回行くお蕎屋さんがあったんですが、治ってからもお蕎屋さんに行くことがありまして、「おっきくなったね～！元気になったね～！」と定員さんに言ってもらうのが嬉しかったです。

あずみさん

私が一番辛かったことがありまして。3歳という時期はちょうどトイレトレーニングの時期があるじゃないですか。トイレトレーニングをして彼女はとても早くできるようになってったんですが、入院時には「おむつにしてください。」って言われたんですね。お小水の量を調べなくてはいけないのと自分で歩いてトイレに行つてはいけないということで。せっかくトイレトレーニングしてひとりでおしっこできるようになっていたのにまた初めからトレーニングをやりなおさないといけない。

それと半年間動かなかったので階段の上り下りが怖くて出来なくなってしまったんですね。その時に「やはりこの半年間って彼女の人生にとって大変だったんだな。」としみじみ思いました。



司会

これは退院の時の写真ですね。すごく良い笑顔ですね。治療の影には先生方やご家族の献身的な支えがあったんですね。

あずみさん

本当にたくさんの方々に支えていただきました。退院の時は腕につけたタグを切るのですが、その時は当然嬉しいのですがでも少し寂しい気持ちもありました。退院してからも2年間毎日決まったお薬を飲まなくてはいけなかったですし、免疫が下がっているので充分気をつけないといけないということがありましたので大変でした。

ゆーゆさん

ついこないだ病院へ行っただんですが、治ってからちょうど10年経ちましたと先生に言われて、その時に話しかけてくださった看護師さんから「私もベテランになりましたよ。」って話しかけられて。家族みんなで「ベテランになられましたね。」って話してました。10年って長いんだなと思いました。

この10年間健康で居られたのも定期検診などで治ってからも1年に1回は再発していないかをきちんと調べてもらってるからなんです。その時に「今回も大丈夫だったね。おめでとう！」って言われると、すごく嬉しいです。

司会

おめでとうって良い言葉ですね。お写真も数枚ご用意頂いてますので拝見していきますが。

あずみさん

ディズニーランド25周年の時ですね。やはり免疫が下がってしまうと風邪をすぐ引いてしまうので、どんな時でも必ずマスクをしていました。その隣の写真は一時退院の時の写真でスパゲッティをほおばっている写真です。これも薬の影響ですごく食欲があってびっくりしていましたね。



司会

一時退院のタイミングなどは、先生方と綿密にコミュニケーションを取りながら決めておられたのですね。

あずみさん

そうです。そしてその病院は都内にある大きい子供病院だったので私達は近くて便利だったのですが、もちろん地方からも大変多くの方も来られていまして、病院のすぐ隣にある دونالدマクドナルドハウスという良心的な価格で家族が泊まれる施設がありました。そこで家族で団欒でき一緒にご飯も食べられる方々もたくさんおられました。企業様がそういった場所を提供してくださるのはすごくありがたいですね。



司会

やはりひとりで乗り越えるのではなくて、寄り添う家族、病院の先生方も一丸となった闘病生活だったわけですね。

あずみさん

そうですね。もちろん入院している子供が一番辛いんですけど、うちは一人っ子だったので兄弟を持ってらっしゃる方々は、どうしても病院に看病に行っているとその兄弟の子がすごく寂しい思いをしているんですね。そういう子達もそういうマクドナルドハウスに泊まって家族で団欒できるということがすごく嬉しかったと聞きました。

司会

ゆーゆさん自身は入院生活中で何か嬉しかったことはありますか？

ゆーゆさん

一時退院の時に遊びに行ったことやお蕎麦屋さんに行ったり、そういうちょっとした外出が嬉しかったです。入院していると真っ白な病室だったので、やはり外出できると嬉しかったです。

[<< 前ページへ](#)

[次ページへ >>](#)

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



▶ がん診療アップデート会場

▶ 開講の挨拶

▶ 上島緩和ケア推進室長の講演

▶ 森看護師の講演

▶ 岩切薬剤師の講演

▶ 荻野医師の講演

▶ 小山教授の講演

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

▶ 井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

▶ 閉講の挨拶

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

そして未来へ

司会

お母さんの歌声も評判だったとか？

ゆーゆさん

みなでお母さんが歌う歌を歌ったりしてました。治療でしんどくなったりした時にみんなで歌を歌ったりするとみんな笑顔になれるんですね。

そういう時に「ああ歌ってすごいな！」と思いました。なので私も「歌を仕事にしたいな」と思ってパパに話をして、それから曲を作って頂いてNHKのみんなのうたでデビューさせて頂いたので、こういう病気になって良かったとは思いませんけど、病気になっているんな経験をさせてもらえるようになったので、私にとってはいいきっかけにはなったと思います。



司会

病気は大変だったけど、そこで夢を見つけられたんですね。そこには寄り添う家族や先生方の大きな愛もあったからでしょうね。

これは退院してからの幼稚園の入学式の写真ですね。

あずみさん

西城秀樹似の主人です。<会場笑い>

ゆーゆの髪も伸びてますね。

今現在も髪をロングにしているのは、やはり髪が抜ける時代もあったのですごく髪というのはゆーゆの中で大事なのかなと思います。

司会

綺麗な黒髪ですもんね。大変な時期を経て、夢を見つけられたんですね。

あずみさんは歌にかける考え方は少し変わったりしましたか？

あずみさん

もっともっと皆様に喜んでもらえるよう、世代を超えて愛される歌を届けられるように頑張ろうと思いました。「愛のほんとうのこと」を歌う度にゆーゆのことを思い出します。「あなたが母さんになった時に愛の本当のことがわかるわよ。」という歌詞。さだまさしさんもゆーゆが病気だったということをご存じですし、そういう意

味も込めて書いてくださっただんじじゃないかと思ます。

司会

では未来へ向かって一言ずつ頂戴してよろしいでしょうか。



あずみさん

がんはすぐ分かるのなら良いんですが、すぐ分からないのががんなんですね。知らないうちに蝕んでしまうのががんだと思いますので、定期検診を受診して早期発見が大切なんだとゆーゆーのこともありしみじみ思ます。看護師さんや先生方とよく相談して、みんなで一丸となって闘っていくのが一番じゃないかなと思ますし、やはり家族や人と人の絆という、ひとりで考え込まないで相談できるような、みんなで考えて助け合って生きていくことが大切なんじゃないかなと思ます。

ゆーゆーさん

私は病気になる前に風邪を引いて体調を崩してたまたま病院で検査したので病気が早く見つかったんです。だから早期発見が大切だと思うので、皆様も少しでも体調が悪いと思ったり不調なところが出てきたらすぐ病院へ行ってもらいたいですし、もしなってしまったとしても、看護師さん、お医者さん、薬剤師さんとこれからどうしていくのかを相談するのが大切だと思います。もしあの時検診を受けてたら後悔しても仕方ないので、きちんと検診を受けてください。

そして私はいつも採血をする時に多めに採血をしていただいているのですが、それで研究が進んでいち早くすぐ治るような予防薬が出来るといいなと思っています。先生方、よろしくお願いたします。

司会

力強いお言葉、有り難うございました。

✿ あずみさんとゆーゆーさん親子の歌声と共に！

司会

ではゆーゆーさん、デビュー曲「6歳のバラード」をお願いただけますでしょうか。

---- ゆーゆーさんの歌声が会場に響き渡ります。全身で一生懸命に歌い上げる姿に会場も温かい雰囲気になりました ----



あずみさん

有り難うございました。

次の曲はNHKのみんあのおうたで歌った「はんぶんおとな」という曲です。

ゆーゆーさん

この曲は二分の一成人式をテーマにしていて、二十歳のちょうど半分の十歳にするミニ成人式のことを歌っていて、そのミニ成人式の時に、今日まで有り難うこれからよろしくね、という親に送ることをモチーフにした曲です。聴いてください。

---- 「はんぶんおとな」を、あずみさんとゆーゆーさんが歌い、美しい歌声が会場に響き渡ります。 ----



あずみさん

有り難うございます。

次はYouTubeで流れています、読売新聞の名物コーナー子供の詩が歌になりました。そのアルバムの中の「かぶとむし」という曲を歌います。

---- 引き続き「かぶとむし」を、あずみさんとゆーゆさんが楽しいダンスつきで歌い、ご来場者様も楽しい笑顔に包まれます。 ----



あずみさん

最後は「となりのトトロ」を歌います。舞台上がりたいご来場者さまぜひ来てください！

---- 舞台にご来場者さまや先生も上がりました ----



あずみさん

私達は日本だけでなく世界のあちこちに行ってコンサートさせて頂いています。今、日本の文化・日本のアニメは世界中で大人気です。「トトロ、トトロ♪」って外人さんもみんな言ってくれるんです。

今度は中国の4箇所でもツアーをやって9月にはアトランタにも行きます。

これからもいろんなところで活躍できるように頑張ります。今日は長い時間たくさんの方々に来ていただきまして有り難うございます。では「となりのトトロ」を歌ってお別れしたいと思います。

---- あずみさんとゆーゆさんとご来場者さまの歌声が会場に響き渡ります。 ----



---- 大阪南医療センター 福井看護部長と川口MSWより花束の贈呈。 ----





>> [井上あずみ&ゆーゆー オフィシャルサイト](#)

<< [前ページへ](#)

[次ページへ](#) >>

情報提供

Information Dissemination

イベント情報

がん診療アップデート

開催レポート
当日の様子をご紹介します

2018年5月19日開催
第19回 がん診療アップデート

緩和医療について

同時開催 井上あずみ、ゆーゆ親子 トークショー

「歌と家庭を守るために、家族で闘った180日！小児白血病～そして未来へ」



がん診療アップデート会場

閉講の挨拶

上島緩和ケア推進室長の講演

森看護師の講演

岩切薬剤師の講演

荻野医師の講演

小山教授の講演

井上あずみ、ゆーゆ親子 (1)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (2)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (3)

井上あずみ、ゆーゆ親子 (4)

閉講の挨拶

閉講の挨拶

「非常に有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。」

大阪南医療センター がん診療連携総括部長 堀内 哲也

本日は第19回がん診療アップデートにご参加いただき誠に有り難うございました。

前半は緩和ケアの講演がありましたが、多職種でがん患者さんの辛さを和らげていくということをご理解頂けたと思います。

後半の特別ゲストの井上あずみさんゆーゆさん親子には、歌とトークショーで非常に有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。

やはり歌というのは緩和ケアと同じ様に人の心を優しくさせると思います。

国はがん患者さんが増えているということであらゆる施策を打ち出そうとしています。

例えば、がんの予防・治療の充実に加え、さらにがん患者さんの就労支援などもやり始めております。



病院としてこれからもその辺りも充実させていこうと思っておりますので、皆様よろしくお願いたします。本日は長い時間、有り難うございました。



[<< 前ページへ](#)
